

1 学年だより

令和 3 年 10 月 19 日 (火)

夢の宅配便

1 年学年主任

水野 喜代治

秋雨と春風

朝起きると、寒くて身構えた。先週まで半袖でいたのに、急激に秋の深まりを感じる。先週、冷たい雨が降って、気温がぐっと下がった。今朝も雨が降っていて、玄関のドアを開けるとひんやりした空気に緊張した。

校舎の 4 階から校庭の銀杏の木が見える。銀杏の木の葉が全体的に黄緑色になり、黄色になる準備をしている。冷たい雨に濡れるたびに、銀杏の葉は一枚、また一枚と黄色に近づいていて、秋色に染まっていく。秋は雨とともに深まっていくんだなとしみじみ感じた。春は風とともにやってくる。南風が吹くたびに、枝先の蕾が膨らんでいく。風が春を呼び、雨が秋を深めていく。

傘を跳ねる雨粒のかすかな音に耳を傾けると秋の足音を感じる。校庭の銀杏をはじめとする木々が黄色と赤に燃えるように色づいた時、私達はその変化に心が奪われる。しかし、校庭の一枚の葉の色の変化に気づくちょっとした気持ちも大切にしたい。次の雨の日は、透明なビニール傘をさして雨の中を歩いてみたいと思った。

秋を見る

冷めたい雨に

ひとしずく

水野 喜代治